

令和2年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会

阿寒地域部会・摩周地域部会（合同開催）

議事概要

1. 日 時：令和2年10月29日（木） 13:30～15:30
2. 場 所：ニュー阿寒ホテル シヤングリラ館 会議室「花鳥風月」
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○北海道環境生活部環境局自然環境課自然公園担当課長 小島 宏 挨拶

日頃から自然公園行政の推進にご理解ご協力いただき感謝。

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトでは、これまで案内標識等の多言語化、マリモ観察ツアー、アトサヌプリの入山規制区域のツアー、廃屋撤去等様々な取組を地域一体となって推進いただき、訪れる方々も十分満喫していることと思う。しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延により、外国人を含め観光客が激減し、誘客促進の経済政策も展開しているが、先が見通せない状況が続いている。

こうした状況を踏まえ、地域協議会において既に満喫プロジェクトの継続をご承認いただき、国においては、来年以降も継続してウィズコロナ、ポストコロナ時代に対応したワーケーションといった新たな利用価値の提供、安全安心で快適に利用できる受入環境整備、先行して推進している8つの国立公園からすべての国立公園へ水平展開といった様々な取組が進められることとされている。

継続されるプロジェクトでは、コロナ禍を踏まえた今までと違う視点も取り入れ、新たな目標を地域協議会で検討されるものである。

ご承知のとおり先日、小泉環境大臣がこの地域を視察された際に電線、電柱、樹木、廃屋によって景観を大きく損ねていると指摘をされ、課題解決に向け全力で取り組んでいきたいとおっしゃっており、その後記者会見でも、「官民連携で縦割りを打破しながら景観改善が必要」と述べられていた。

そういったお考えが反映され、阿寒摩周国立公園のブランド力が今より更に向上され、世界水準まで高められることで、誘客促進、地域活性化につながっていくものと考えている。引き続き地域一丸となり、取組を進めて参りたいと考えており、改めて皆様へご理解ご協力をお願いしたい。

■議題

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱の改正について

○事務局より資料1に基づき説明。

※意見等なし

(2) 国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針について

○環境省より資料2～4に基づき説明。

○質疑

【釧路市産業振興部 秋葉観光振興監】

- ・資料4(2)において、「ひがし北海道におけるATの推進」と記載があるが、ここだけ「ひがし北海道」と記載した意図や目的があれば伺いたい。
- ・この5カ年間で観光資源や受入環境を整えてきたが、1つの基軸となる情報発信が縁遠く感じており、次計画の中で情報発信をどう捉えているのか伺いたい。

【環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長】

- ・阿寒摩周国立公園をひがし北海道におけるATの玄関口として機能強化を図っていく意図で記載している。環境省本省(以下「本省」)の2021年以降の取組方針である資料2の4P(6)に「複数公園・周辺観光地との広域的な周遊利用」と記載されており、本省の方針に沿った取組を地域の計画に含むことで、更なる高みを目指す公園として選ばれる可能性が高くなるため、広域的な取組を意識した項目として記載している。
- ・情報発信は、本省でとりまとめた上で国立公園全体のブランド価値を高める情報発信や映像を海外に発信してきている。引き続き国立公園の露出を増やすような情報発信はしていく。本省でプロモーション等の戦略作りを議論しているところである。

(3) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラムの2020年までの成果及び2021年以降の取組について

○各構成員より、資料5～6に基づき補足説明。

環境省から資料5～6の補足で資料7-1～8も併せて説明。

○補足事項(資料に追加して発言があったもののみ)

【釧路市産業振興部 秋葉観光振興監】

- ・国立公園内のワーケーションを民間中心に宿泊施設、ガイド事業者、交通事業者がワーケーションのおもてなし整備を環境省の交付金を活用しながら取り組んでいる。

【阿寒観光協会まちづくり推進機構 高田事務局長】

- ・アイヌ文化で、エニertimeアイヌtimeというアイヌの方にご協力いただき、様々なツアーを作っているので情報発信、販売強化、磨き上げ等の手伝いをしていく。
- ・コロナ渦で中止したカムイルミナに代わり、コロナを最小限に防ごうとカムイノミというアイヌの祈りをするカムイへの祈りを実施している。

【津別町産業振興課 坂井係長】

- ・津別峠に多言語解説整備事業を活用し、公園をPRする看板を作成している。

【中標津町経済部経済振興課 太田課長】

- ・北根室ランチウェイだが、主催者が現体制での維持が難しい旨意思表示があり、中止が発表された。関係者で観光資源として残したいため協議を重ねたが、資金、受皿、酪農への影響等課題が多いこと、ルート沿線の地域住民とも協議を重ねたが、家畜伝染病への対応、繁忙期の酪農に対する影響、事故発生時の責任所在等様々な要因から中止することとなった。今後は、この決断を重く受け止め、このまま終了するのか、継続するのか地元関係者と協議していく。

【摩周湖観光協会 渡辺会長】

- ・華の湯ホテルを廃屋処理した跡地でイベント「KAWaaaaRu 川湯」を実施した。

【弟子屈町観光商工課 秋山課長】

- ・屈斜路湖の適正利用を図るために動力船の規制を検討している。
- ・環境省、北海道と三者協定を結び、公設キャンプ場の一括管理を民間事業者に委託している。一括管理をすることで新たな利用方策が高まっている。

【環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長】

- ・トレイルネットワークの中で象徴的なルートとして阿寒エリアと摩周エリアを結ぶルートを検討しており、その他のルートも含めて図示したものが資料7-3となっている。
- ・本省の技術指針改定に伴い、地域統一文様の変更検討を行っており、資料7-2が新しいデザイン案となっている。協議会で正式決定したいと考えている。現在、看板整備検討している機関は、事前にご相談して欲しい。
- ・小泉環境大臣視察では、阿寒湖温泉街のまちなみ景観改善として課題として電線の問題が指摘された。無電柱化自体は地域主体の取組となるが、地域と連携しながら可能な部分は応援しつつ、連携しながら景観改善を進めていきたい。
- ・川湯温泉街では、小泉環境大臣から、温泉の川など素晴らしい観光資源を廃屋が台無しにしていることについて、「壮大なもったいなさ」と表現されており、引き続き廃屋撤去に取り組み、弟子屈町と連携しながら新たな民間投資を呼び込む取組を進めていきたい。

※意見等なし

(4) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト2021年以降の推進体制について(提案)

○事務局より資料9に基づき説明。

※意見等なし

(5) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会の令和2年度スケジュールについて

○事務局より資料10に基づき説明。

※意見等なし

(6) その他

○全体を通しての意見等。

※意見等なし

■閉会

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長

- ・次期満喫プロジェクトに向けて取組を継続する中で、今回の会議ではこれまでの計画における成果をご報告いただき、今後の計画について、ご意見を皆様からいただき感謝。
- ・本省の示した方針で、水平垂直展開が挙げられており、今後満喫プロジェクトを34公園に広げていくことで予算が限られてくる中、取組が薄まることと予想されるが、更なる高みを目指す国立公園に阿寒摩周国立公園が位置付けられるよう計画を充実させていく必要があると考えている。
- ・今日いただいたご意見を基に、次に繋がるような計画をとりまとめていこうと考えているので引き続きご協力いただきたい。